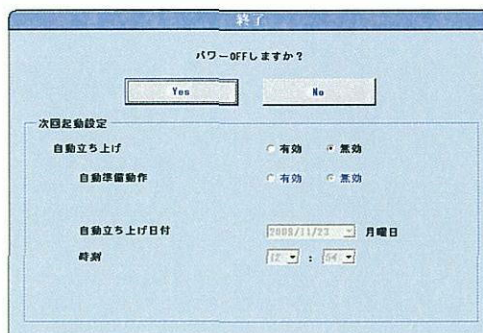
7.12 システムをシャットダウンする

すべての検体の分析が終了したら、システムをシャットダウンします。
シャットダウン後も、本装置の試薬保冷庫、および反応槽（恒温槽）の温度は維持されます。
また、ISE（オプション）が搭載されている場合は、ISE の洗浄が定期的に自動で行われます。
なお、シャットダウンの操作は W2 またはフォトキャルの実行中でも行うことができます。
W2 またはフォトキャルの実行中にシャットダウンの操作を行った場合には、W2 またはフォトキャルが終了した後に、自動的にシャットダウンします。

シャットダウンするには、次の操作を実行します。

1. **すべての検体の分析が終了していることを確認します。**
2. **ホームをタッチします。**
   「ホーム」画面が表示されます。
3. **終了をタッチします。**
   「終了」ダイアログが表示されます。

4. **自動立ち上げの設定を行います。自動立ち上げが有効に設定されている場合は、設定した条件が表示されます。自動立ち上げを行わない場合は、無効にチェックを入れます。**
5. **Yes をタッチします。**
   シャットダウンが開始されシステムが終了し、自動的に本装置の副電源が OFF になります。
6. **純水装置の取扱説明書に従って、イオン交換水を供給しない状態にします。**

⚠ 警告

本装置はイオン交換水の元栓を制御できません。自動実行のため夜間や休日などにイオン交換水元栓を開放のまま無人放置する場合は、使用者の責任で水漏れがない確実な給水配管であることを事前に確認してください。

補足

自動準備動作の実施内容は、納品時の設定によります。詳しくは弊社サービス部門にご確認ください。

システムの自動的立ち上げ機能の設定→『4.9.4　自動立ち上げを設定する』

11.7 緊急停止あるいは停電からの復旧

停電または緊急停止した場合は、すみやかに主電源を切ってください。恒温槽および試薬保冷庫への電源も遮断します。

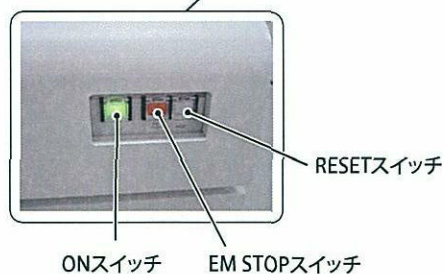
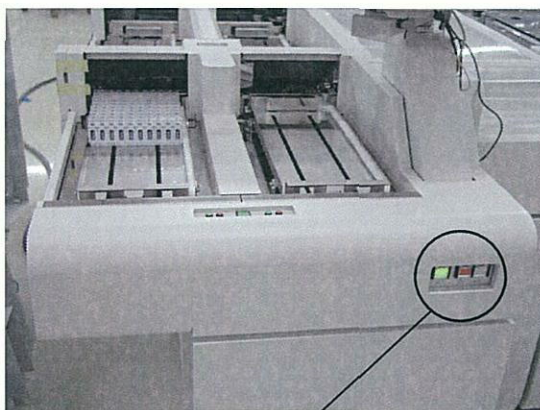
- 緊急停止する
- 停電または緊急停止後、分析装置をリセットする

⚠ 注意

分析モードの間に緊急停止または停電が起きた場合、作成された分析データを使用することはできませんので、分析装置上にある検体の分析を再度実行する必要があります。停電または緊急停止後、分析装置の電源を長時間 ON にしなかった場合は、試薬保冷機能が働いていないため、分析を再開する前に、試薬の状態をチェックしてください。

11.7.1 緊急停止する

緊急停止する最良の方法を説明します。

1. サンプラー部の EM STOP（緊急停止）スイッチを押して、分析装置の主電源を OFF にします。
2. Ctrl+Alt+Delete を押して、タスクマネージャーを表示させます。
3. シャットダウンをクリックして、実行しているソフトウェアを終了します。

11.7.2 停電または緊急停止後、分析装置をリセットする

停電の場合、あるいは緊急停止を行った場合は、以下の手順を実行してください。

- 分析装置をリセットする
- サンプルを確認する
- 試薬を確認する

● 分析装置をリセットする

1. サンプラー部のRESETスイッチを押します。
2. 10秒待ってから、ON（副電源）スイッチを押して、ソフトウェアをロードします。
3. メッセージ「アナライザーへのプログラム・ダウンロード実行中です。」が表示されます。
4. 次に、警報として「前回の電源断がEND処理でない方法で行われています。データベース再構築を実行します。」が表示されます（OKをタッチして警報を消します）。
5. データベースの再構築処理後、「インデックス作成」ダイアログが表示されます。前回分析のインデックスを選択し、OKをタッチします。

● サンプルを確認する

1. **ホーム > サンプルマネージャ > 患者検体 > メイン**の順にタッチして、「患者検体：メインタブ」画面を表示します。

   装置上の検体の分析状況を一覧表示します。データ出力が完了したサンプルNo.を確認します。

● 試薬を確認する

1. **ホーム > 試薬管理 > メイン**の順にタッチして、「試薬管理：メインタブ」画面を表示します。
2. **試薬チェック（F5）**をタッチします。

   「試薬チェック」ダイアログが表示されます。
3. 試薬チェックを行うユニットのチェックボックスをチェックします。
4. 「全位置で残量チェック」を選択します。
5. 「試薬IDをチェック」を選択します。
6. **開始**をタッチします。

   試薬チェックが開始され、画面上に「チェック中」と表示されます。

   チェック終了後、「試薬チェック済み」が表示されます。